



令和元年8月26日

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定）の 事後評価結果について

この度、課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定）について、事後評価を実施しましたので、その結果をお知らせします。

1. 事業の概要

本事業では、我が国が抱える医療現場の諸課題に対して、科学的根拠に基づいた医療が提供でき、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成する大学の取組を平成26年度に26件の取組を選定し、平成28年度から領域を拡大し、支援しております。

この度、平成26年度に選定した取組が補助期間を終了したため、事後評価を実施しました。

【取組1】医師・歯科医師を対象とした人材養成 14件

【取組2】看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成 12件

<補助期間>平成26～30年度（5年間）

2. 事後評価について

事後評価は、事業の実施状況や成果等を検証し、中間評価結果を踏まえた対応が適切に行われたか評価すること、評価結果をフィードバックして事業の更なる発展に役立てること等を目的としています。

課題解決型高度医療人材養成推進委員会において、事後評価の実施方法を決定し、同委員会の専門委員が分担して書面評価を行ったうえで、事業の実施状況や成果等を確認し、中間評価結果を踏まえて、計画とおりの目的が達成されたか否かについて、評価結果を別添のおり取りまとめました。

<本件担当> 高等教育局医学教育課 大学病院支援室
病院第二係 高木、柿原
電話：03-5253-4111（内線2578）

課題解決型高度医療人材養成プログラム（平成26年度選定）に係る事後評価所見

1. 事後評価について

健康長寿社会を実現し、国民からの多様な医療ニーズに対応していくためには、国民が安心して質の高い医療を受けられる医療提供体制を構築するとともに、医療現場の様々な課題に対応していくことが必要となります。

このため、科学的根拠に基づいた医療を提供し、健康長寿社会の実現に寄与できる優れた医療人材を養成するため、課題解決型高度医療人材養成プログラムでは、平成26年度に26件の取組を選定し、平成28年度から領域を拡大しました。

この度、平成26年度の取組が5年間の補助期間を終了したため、事業の実施状況や成果等を検証し、平成28年度に実施した中間評価結果を踏まえた対応が適切に行われたか評価するとともに、評価結果をフィードバックして事業の更なる発展に役立てるよう、事後評価を実施しました。

2. 本事業の成果

変化し続ける国民の多様な医療ニーズに対応するためには、選定大学における当該ニーズの的確な把握や、効果的な教育、教育効果の測定、そしてそれらの普及に取り組むことが必要であり、そのために本事業は重要な役割を果たしたと考えられます。

具体的には、本事業により新たに開設された111の教育プログラム・コースにおいて、学部生、大学院生、社会人などそれぞれの能力に応じた多彩なコースが展開され、基本コース、インテンシブコースの合計で41,086名の医師・メディカルスタッフ等が養成されました。

特に、

- ・複数の取組において、他では見られない教育手法の開発や、教育効果を測定する指標が作成されるなど、顕著な成果が見られたこと。
- ・上記教育により輩出された人材が医療の現場で活躍することはもとより、大学病院等において指導者となり、新たな人材養成に繋がっていること。
- ・取組が大学や自治体等に受け入れられ、新たな資金援助を得て持続的な活動が可能となったことや、職能団体の生涯教育プログラムの一環と位置付けられたこと。

など、優れた取組が多くみられたことから、本事業の目的は達成されたと評価します。

一方、事業主旨の理解不足や、準備不足等により、下記のような不十分な取組が複数見られたことは今後の課題だと捉えています。

- ① 社会への情報発信が学内または県内にとどまり、全国的な成果の普及・展開に向けた取組が不十分である。
- ② 補助期間中に事業の継続に向けた計画的な検討ができておらず、特に、学内における理解醸成が不十分であったことから、補助期間終了後に事業規模を縮小せざるを得なくなった。

3. 推進委員会からの期待

本事業の選定・中間評価・事後評価に関わった委員会として、各大学への期待や得られた知見を以下に述べます。

- ① 各大学に即した無理のない形で本事業を定着させ、構築された教育プログラムにおける人材養成機能を活用し、引き続き高度医療人材の養成に取り組んでいただきたい。特に、地域や自治体、職能団体との理解を高めることは、取組を継続させる上で有益であることから、重ねて実施いただきたい。
- ② 教育効果を測る適切な指標を設定した上で、本事業により構築された教育プログラム・コースで受け入れている受講者や修了者に対する満足度調査、フォローアップ調査等を通じて、教育効果を把握・分析し、必要に応じて教育プログラム・コースの見直しを行うなど、更なる質の向上に努めていただきたい。そのため、特に、外部評価の適切な頻度での実施、有益な示唆を得ることができる外部委員の選定に留意いただきたい。
- ③ 他大学や他の医療機関等への成果等の波及を意識し、各大学における取組状況や成果・効果等を可能な限り目に見える形に可視化した上で、特色ある先進的な取組やモデルとなる取組について、実現するためのノウハウ、留意点等も含めて積極的に情報発信し、成果等の普及・展開に努めていただきたい。

4. 最後に

取組の実施に当たっては、事業結果報告書等には書ききれない様々な困難があったことが推察されますが、このような中、5年間の長きにわたり取組の実施に関わった関係者に対して、この場を借りて感謝を申し上げます。

しかし、我が国の医療を取り巻く状況は依然として厳しく、大学・大学病院が質の高い医療人材を養成し続けることが求められていることから、担当者においては引き続き不断的な努力をもって事業の改善に取り組んでいただくとともに、それ以外の大学・大学病院においては、本事業の成果を参考に今後の運営に取り組んでいただくことを期待します。

※なお、本評価は、各取組により、事業計画や連携大学数、地域の実情等がそれぞれ異なることから、各取組の内容を比較して優劣をつけるものではなく、各取組が掲げた当初計画の進捗状況や本事業の目標が達成できたか否かを評価したものであることに御留意ください。

課題解決型高度医療人材養成推進委員会
委員長 大島 伸一

課題解決型高度医療人材養成推進委員会委員名簿

- | | | |
|---|--------------------|-----------------------------------|
| | えとう かずひろ
江藤 一洋 | 公益社団法人医療系大学間共用試験実施評価機構
副理事長 |
| ○ | おおしま しんいち
大島 伸一 | 国立研究開発法人国立長寿医療研究センター
名誉総長 |
| | かわもと りえこ
川本 利恵子 | 公益社団法人日本看護協会元常任理事 |
| | こばやし けいた
小林 慶太 | 公益社団法人日本歯科医師会元常務理事 |
| | たけだ じゅんぞう
武田 純三 | 独立行政法人国立病院機構東京医療センター
名誉院長 |
| | つじ てつお
辻 哲夫 | 東京大学高齢社会総合研究機構特任教授 |
| | ながた たいぞう
永田 泰造 | 公益社団法人日本薬剤師会常務理事 |
| | はとり ゆたか
羽鳥 裕 | 公益社団法人日本医師会常任理事 |
| | はんだ かずと
半田 一登 | チーム医療推進協議会代表
公益社団法人日本理学療法士協会会長 |
| | やまぐち いくこ
山口 育子 | 認定NPO法人ささえあい医療人権センターCOML
理事長 |

計10名（○:委員長）
五十音順(敬称略)

課題解決型高度医療人材養成推進委員会専門委員 名簿

【取組1】医師・歯科医師を対象とした人材養成

(1) 横断的な診察力とマネジメント力の両方を兼ね備えた医師養成

① 医療の質管理領域(医療安全・感染制御)

NO	氏名	所属
1	今村 知明	奈良県立医科大学医学部教授
2	菊地 龍明	横浜市立大学附属病院准教授
3	橋本 重厚	福島県立医科大学会津医療センター教授

(五十音順 敬称略 計3名)

② 災害医療領域

NO	氏名	所属
4	奥寺 敬	富山大学大学院医学薬学教育部教授
5	小倉 真治	岐阜大学大学院医学系研究科教授
6	小井土 雄一	国立病院機構災害医療センター臨床研究部長

(五十音順 敬称略 計3名)

③ 臨床医学教育・研究領域

NO	氏名	所属
7	植村 和正	愛知淑徳大学健康医療科学部教授
8	北村 聖	公益社団法人地域医療振興協会地域医療研究所シニアアドバイザー
9	平形 道人	慶應義塾大学医学部医学教育統轄センター教授

(五十音順 敬称略 計3名)

(2) 特に高度な知識・技能が必要とされる分野の医師養成

① 難治性疾患診断・治療領域(臨床病理を含む)

NO	氏名	所属
10	小澤 敬也	自治医科大学名誉教授
11	葛原 茂樹	鈴鹿医療科学大学大学院医療科学研究科長
12	松原 洋一	国立研究開発法人国立成育医療研究センター研究所長

(五十音順 敬称略 計3名)

② 高難度手術領域

NO	氏名	所属
13	寺崎 浩子	名古屋大学大学院医学系研究科教授
14	星長 清隆	学校法人藤田学園理事長
15	松本 純夫	国立病院機構東京医療センター名誉院長

(五十音順 敬称略 計3名)

③ 小児周産期領域

NO	氏名	所属
16	杉浦 真弓	名古屋市立大学大学院医学研究科教授
17	豊島 勝昭	神奈川県立こども医療センター新生児科長
18	中川 義信	国立病院機構四国こどもとおとなの医療センター名誉院長

(五十音順 敬称略 計3名)

(3) 健康長寿社会の実現に貢献する歯科医療人養成

NO	氏名	所属
19	高橋 一也	大阪歯科大学歯学部主任教授
20	丹沢 秀樹	千葉大学大学院医学研究院教授
21	角町 正勝	角町歯科医院院長 全国在宅療養支援歯科診療所連絡会副会長

(五十音順 敬称略 計3名)

【取組2】看護師・薬剤師等のメディカルスタッフを対象とした人材養成

(1) 地域での暮らしや看取りまで見据えた看護が提供できる看護師の養成

NO	氏名	所属
22	小牟田 智子	前東京医科歯科大学医学部附属病院看護部長
23	清水 多嘉子	公益財団法人がん研究会有明病院副院長
24	武村 雪絵	東京大学大学院医学系研究科准教授
25	手島 恵	千葉大学大学院看護学研究科教授
26	中村 順子	秋田大学大学院医学系研究科教授

(五十音順 敬称略 計5名)

(2) 指導力を有し地域医療で活躍できる薬剤師の養成

NO	氏名	所属
27	安原 真人	帝京大学薬学部特任教授
28	渡邊 大記	公益社団法人日本薬剤師会常務理事
29	渡邊 真知子	帝京大学薬学部教授

(五十音順 敬称略 計3名)

(3) チーム医療に貢献でき、高い指導能力を持ったメディカルスタッフの養成

① 生体機能回復支援領域(理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士)

NO	氏名	所属
30	伊藤 義広	広島大学病院診療支援部長
31	立石 雅子	一般社団法人日本言語聴覚士協会副会長 目白大学保健医療学部教授
32	鶴見 隆正	湘南医療大学 リハビリテーション学科長

(五十音順 敬称略 計3名)

② 生体機能診断支援領域(診療放射線技師、臨床検査技師、臨床工学技士)

NO	氏名	所属
33	児玉 直樹	新潟医療福祉大学医療技術学部教授
34	長沢 光章	一般社団法人日本臨床衛生検査技師会代表理事・副会長 国際医療福祉大学成田保健医療学部医学検査学科長
35	本間 崇	公益社団法人日本臨床工学技士会理事長

(五十音順 敬称略 計3名)

③ 口腔機能回復支援領域(歯科衛生士、歯科技工士)

NO	氏名	所属
36	杉岡 範明	公益社団法人日本歯科技工士会長
37	武井 典子	公益社団法人日本歯科衛生士会長
38	深浦 順一	一般社団法人日本言語聴覚士協会会長 国際医療福祉大学大学院医療福祉学研究科教授

(五十音順 敬称略 計3名)